



母の家 立ちいづるより 雲の峰



江津湖

江津塘は 子供時代の道であり 広場でもありました。

俳人 中村汀女さん

「江津湖浄化」「美しい水を取り戻そう」と叫ばれ始めてかなりの歳月が経過しました。近年、少しずつではありますが美しくなりつつあるようです。江津湖と言えば熊本市出身の俳人・中村汀女さん。県近代文化功労者、熊本市名誉市民の汀女さんに東京・世田谷の自宅でお話を聞きました。



全国各地から千人

近い人たちに集まって頂き、赤いチャンションを着せてもらい、長生きして良かったと思つていきます。「風花」をこれまで続けてこられたのも、熊本はじめ全国のお仲間のおかげと思ひ、皆さまとともに過ごした月日を思い返しております。今は亡き母の米寿の祝いを熊本の家で催したことが、つい先日のことのように思われますが、私もその年齢に達したのかと思うと、月日のたつのは早さを実感し、マゴマゴするばかりです。

熊本を離られて七十年。故郷・江津湖の思い出、思い入れなどを。

今でも江津湖の四季折々の景色は目にくっきりと焼き付いています。江津塘は道であり広場でもありました。盆踊りの会場でもあり、相年(あいどし)の子供たちと遊ぶ場所でもありました。若草の萌える阿蘇連山、入道雲のわき立つ外輪山、薄く冠雪した山々を、塘に出て眺めやるのが通例になっていました。今では阿蘇連山の全貌も建物に遮られて見ることができなくなり、江津湖自体も水が減ったり洲(す)が出来て寂しい姿になっており、悲しい思いがつのります。

今年十月には、熊本で第二回国民文化祭が開かれ、汀女先生も俳句の選者として出席されるとか。

熊本で全国規模の文化的催しが開かれると聞き、大変うれしく思います。全ての作品をコピーして届けてもらい、選句することになるでしょうが、熊本に出かけて会場で参加者にお会いして俳句のことを話したいと思つていますが、少し体調をくずしていますが、何とか出席したいと考えております。

最後に熊本への提言、メッセージを。江津湖もすっかり変わってしまいました。湧き水を手ですくって飲んだ者にとつては寂しい限りです。水辺近くまで建て物が建ち始めたようです。箱根や芦ノ湖周辺は大変厳しく規制してあるようです。江津湖周辺に限りませんが、開発と自然保護は難しい問題があるようです。早く手を打たないと手遅れになってしまうのでは…。

熊本銀座5丁目



「熊本情報の発信ステーション」
—「銀座熊本館」。
今年3月16日のオープン以来、
県内各地域の企業、グループが、
ここを舞台にさまざまなイベントを
繰り広げています。



銀座熊本館

天然素材の草畳を くらしの中に 「座畳展」開催。

「先輩たちが試行錯誤を繰り返しながらつくりあげた熊本のい業ですが、ただそれにあぐらをかいているばかりではもうダメです。その名も『夢畳』など、八代からい草の新製品をひっそり銀座で展示会を開催した八代市の奥田拓男さん。六月十一日から六日間、銀座熊本館は日本文化の原点、畳のゆかしい香でいっぱい道行く人もふと足を止め、興味深げに店内を見回していました。

全国生産の約八割を占める熊本のい草。しかし、外国産の輸入問題をはじめ、行く先には難問山積。
「若い人たちが新しい感覚で、一つのファッションとして畳を見てくれているんですね。業以外の、建設会社、工務店、店舗ディスプレイデザイナーなど、予想以上の人たちに会い出来ました。」奥田さんは、銀座熊本館を足がかりに、全国市場へと挑戦中。熊本のい草の健全ぶりを大いに高めてもらいたいものです。
東京・銀座のどまんなかで、きょうもくまもとが話題です。



「銀座熊本館」のご利用申し込み、お問い合わせは

- 熊本県東京事務所広報経済課
〒104 東京都中央区銀座5丁目3-16
☎03(572)5022
- 熊本県総務部広報課
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
☎096(383)1111

「銀座熊本館」イベントスケジュール (62.7.4 現在)

7月28日	8月12日	17日	25日	27日	30日	9月1日	5日	9日	13日	20日	27日	10月5日	10日
中国物産と気功 有野田開発	ピリヤード フェア 有野田開発		CI-WORKS.in. KUMAMOTO 友枝建築事務所					五高百年祭イベント 五高百年祭実行委員会		肥後絵がすり 洲崎佐夜子		熊本市観光展 (熊本市・熊本市観光協会) 永田木工所	

編集後記

▽平家の落人伝説が今なお語り継がれている隠れ里、五家荘。今回の「やるぞ日本」は、きわだった地域個性をもつ秘境のむらおこしを探りました。やはりここでもキーポイントとなるのは地元住民の情熱。「真の地域づくりを定着させるには単なるボランティアではだめです。地域の人々が創意工夫し、産業おこしを通じて地域活性化しなければ。」と語る村の振興課むらおこし係長さんの言葉が印象的でした。

▽世界の真珠の流通単位が今も、もんめ・貫だということをご存知でしょうか。明治二十六年御木本幸吉氏が世界で初めて真珠の養殖に成功して以来、手先の器用さがものをいうのか、日本はいつも養殖真珠生産の中心。その為、現在も「もんめ」という単位が使われているとのこと。ちなみに、我が国では昭和三十四年に尺貫法の使用が禁止されましたが、真珠に限っては認められていたと聞き実際に調べてみたら、計量法、計量単位令にちゃんと規定がありました。スゴイ！

▽蔵満老人クラブの安田会長。七十一歳だと聞き、若いのにびっくり。一メートル以上もある提防の上をヒョイヒョイと歩き撮影の場所を探してくれました。スタッフの方がついていけず、下を追っていく有様。情けない。心に張りがあるといつまでも若くいられるのでしょうか。どうぞいつまでもお元気な松原を見守って下さいね。そしてクラブ員の皆さんに、心から「おめでとう」の言葉を送ります。